

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 3月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670105198
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホームサンライト
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町570-297 (電 話) 099-295-7878
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(平成 20 年 2 月 22 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.55 人	

(2)建物概要

建物構造	木・鉄骨造スレート葺造り		
	2階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000	円	その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000 円		有りの場合 償却の有無	有(期間:退去時)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(2 月 22 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 厚仁会 肥後クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の新興住宅地に建っている開設2年目のグループホームである。近くに同法人の老人福祉施設やケアハウス・ディサービスセンターなどがあり、連携を取りながらサービスを提供している。利用者が「ここに来て良かった」と心の底から満足できる(一部略)「暮らしを目指し、「聴く」事を重視し、職員研修にも力を入れている。利用者それぞれの主治医とのコミュニケーションにも力を入れ、24時間対応の医療体制と訪問看護の協力を得ている。2階にグループホームとしてはかなり広い地域交流スペースを確保し、運営推進会議の充実や研修会・ネットワーク作り・地域との合同の企画などに活用が期待される。法人の他の施設とともに質の高いサービスを提供しているが、さらに高い目標を掲げ課題を見つけ努力を重ねながら、利用者と食堂などでのおしゃべりも大切にするホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 結果を利用者全員の家族に配布し、家族会でも説明するとともに、職員会議で改善計画シートを作成し、優先度の高いものから取り組んでいる。「運営理念の啓発」について積極的に情報を発信し、理解を深めてもらうように努力をしている。ホーム内の地域交流スペースを利用し模索しながらも、着実に地域との連携が深まっている。「市町村との連携」については、市介護相談員や職場体験の受け入れを積極的に行い、地域包括支援センターとの相互訪問で連携を深めている。「緊急時の手当て」はマニュアル作成・定期的な訓練・施設外への警報設備の設置などの取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は意義や目標を全職員に伝え、勉強会や申し送りの時に1つ1つの項目について話し合い、1カ月以上かけて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表・家族代表・地域包括支援センター・民生児童委員・運営者・管理者等が出席し、2ヶ月に1回開催している。活動状況や外部評価の結果・自己評価・地域との連携等のテーマについてホームから説明したあと、活発な意見交換を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営者や管理者は家族が意見や苦情を出しにくいことを十分に理解し、家族交流会を4ヶ月に1回開催、運営推進会議はなるべく交替でいろいろな家族の参加を依頼、第3者委員(地域住民・福祉経験者など法人と関係のない人)の設置、意見箱用の記入用紙の検討、年1回の家族へのアンケートなど工夫を重ねている。なお、出された意見や要望はミーティングで話し合い、家族に報告し信頼関係を深めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 新興住宅地でもあり、積極的に地域にグループホームの情報を発信しようと取り組んでいる。町内会に加入し、餅つき等の行事に来ていただいたり、2階には地域交流スペースを作り活用してもらうなど、地域とグループホームの垣根を低くするような努力をしている。

調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年4月に理念を見直している。「ここに来て良かったと心の底から満足できる(一部略)」「知恵を出し助け合い補い合っ て一家和楽のホームを目指します」の理念と地域密着の意味を、職員全員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室やリビングに分かりやすく掲示すると共に、全ての職員の名札の裏に印刷している。また、理念に関することをミーティング・職員会議や家族会などでも機会を見つけて話し合い、管理者と職員は常に意識し理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、餅つき等の行事に来ていただいたり、2階には地域交流スペースを作り活用してもらうなど、地域とグループホームの垣根を低くするように積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は冊子にし、家族全員に配布し、家族会でも説明を行っている。毎月1回の職員会議で改善計画シートを作成し、優先度の高いものから取り組んでいる。「市町村との連携」は模索しながらも着実に地域や市町村との連携が深まっている。「緊急時の手当て」はマニュアル作成し、訓練を実施しているが、目標に掲げた応急手当普及員の資格を取得するには至っていない。今回の自己評価は1月末より勉強会や申し送りの時に各項目について時間を掛けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表・家族代表・地域包括支援センター・民生児童委員・運営者・管理者等が出席し、2ヶ月に1回開催している。活動状況や外部評価の結果・自己評価・地域との連携等のテーマについてホームから説明したあと、活発な意見交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員を2月に受け入れサービスの向上に努めている。地域包括支援センターとの相互訪問で、相談や情報交換も行いやすい環境を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの様子や利用者の暮らしぶりや健康状態などを記載し、写真を添えてサテライト通信として個々に郵送し、金銭管理状況についても明細領収書を郵送している。その他、家族交流会や運営推進会議・法人の通信・掲示板でもホームの状況を報告している。また、健康状態によっては電話で随時報告を行い、関係の構築に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情を出しにくいことを十分に理解し、家族交流会を4ヶ月に1回開催、運営推進会議はなるべく交替でいろいろな家族の参加を依頼、第3者委員(地域住民・福祉経験者など法人と関係のない人)の設置、意見箱用の記入用紙の検討、年1回の家族へのアンケートなど工夫を重ねている。なお、出された意見や要望はミーティングで話し合い、家族に報告し信頼関係を深めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者に影響を及ぼすことを十分理解しているが、開設2年目ということもあり、法人内異動はやや多い。管理者の異動など利用者への影響が大きいと予想されたときには、理事長・園長・理事などがほぼ毎日ホームに滞在し、利用者の状況を確認し職員の様子を把握するよう努めている。また、新しい職員は就業前に数回ホームを訪問し、馴染みの関係を作る努力をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の年間計画があり、毎月1～2回の施設内研修を行っている。その他、人員に余裕を持った体制をとりながら新人の指導にあたっている。また、施設外研修を受講する機会も積極的に設け、受講内容を各職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市・介護支援専門員協会・社会福祉協議会等の研修会に積極的に参加し、同業者と交流する機会を持っている。また、地域包括支援センターと共同して地域交流スペースを利用し、地域の同業者の研修会や情報交換会を開催する取り組みが始まっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には必ず家族と一緒にホーム内の見学に来てもらったり、職員が自宅を訪問し面談を行って、関係作りを開始している。また、入居後も家族に頻繁に面会してもらい、食事を共にするなど徐々に雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は大先輩であり職員と共に過ごす家族として、得意なことは教わりながら、行事や買い物などは相談をしながら進めるようにしている。また、馴染みの関係での声かけと大先輩として尊敬する態度は、メリハリを付けるように気をつけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始時には生活歴や身体状況を確認し、アセスメントを取り記録している。入居後はお茶や食事時間、くつろいだ時間により多くの会話の機会を確保して、別途家族の協力を得るなどして利用者の意向を引き出している。利用者の希望にできるだけ対応する事で、思いや意向を示す意欲を持ってもらうように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人には面会の時などに話し合いを行い、意見を聞くようにしている。担当者会議には全職員が参加し、呼びかけに応じた家族や本人と共に、意見やアイデアを出しあっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3～6ヶ月ごとに見直しをしている。なお、業務日誌やケース記録等を参考に状況の変化があった時、本人や家族の要望があった時には計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアハウスを利用している方が時々家族と共にグループホームを訪問し、馴染みの関係をつくりながらグループホームへ入居できるよう、状況に応じた支援をしている。また、医療の必要性の高い利用者でも本人や家族の希望を取り入れ、できるだけ馴染んだ環境のもとで生活が継続できるように、話し合いや研修を続けながら支援をしている。また、主治医と話し合いを重ね往診を依頼するなど、職員が模索しながら柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を開き、話し合いの上で指定医療機関を決めてもらう。定期的な受診は訪問診療があり、通院は家族の協力を得て行っている。急な受診は家族に連絡し、可能な一緒に付き添ってもらい。職員のみが受診に付き添った場合は、家族訪問や電話にてすぐに状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の指針は一般的なものがある。運営推進会議や家族交流会で説明を行い、さらに個々の家族との話し合いの上で方針を決めている。現在訪問診療を受けている利用者が多く、主治医と連携のある訪問看護と協力し、24時間体制で見守り、職員も方針の共有ができています。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護や個人情報の保護について研修計画に組み込み、職員の意識の徹底を図っている。また、個人情報の保護方針を掲示し、入居時に利用者や家族にも説明するとともに、記録物は事務室に名前が見えないように保管し、ホワイトボードなども見えにくい場所へ移動するなど常に秘密保持の徹底に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出先・買い物・着る服の希望を聞くなど、その人らしい暮らしを応援している。1日の流れも体調や利用者のペースを尊重するようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を話題にし、献立が重ならないように注意しながら、食事が楽しみになるようにしている。料理の下ごしらえやおやつ作りなどに参加したり、後片付けを一緒にして利用者の力を発揮できる場面を作っている。また、職員も一緒に会話をしながら楽しい雰囲気、一人ひとりのペースを大切にしている。食事の形態も工夫しながらできるだけ自分で食べられるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には決まっているが、利用者の希望に応じて毎日入浴できる。入浴の時間帯も午前中や午後のお茶の時間の後など選べるようになっており、長風呂が好きな利用者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や潜在している力を見極め、本人の気持ちを尊重している。大正琴・毛糸の束ね・お花・仏壇のお参りなど様々な機会を見つけ場面作りを工夫している。しかし、開設2年目であり、入居後日が浅い人もいるため、さらに潜在する力の発掘の必要性を感じる。	○	管理者や職員は利用者にとって役割や楽しみ事を支援する大切さは認識している。今後さらに対話や生活を通して本人の気持ちや力を引き出し、本人や家族や職員がそれを共有し「してあげる介護」から「本人が生きていることへの支援」を目指してほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物・ドライブ・散歩など外出の支援を行っている。また、和室からすぐ庭に出る事ができ、庭の散歩・洗濯物干し・日向ぼっこなど、遠出でなくても外気に当たる機会を持つように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、家族会などでも説明理解を求めている。外出したい様子の利用者には気持ちを理解するように努め、さりげなく声をかけ一緒に出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回、消防署とセキュリティー会社と合同で避難訓練(特に夜間を想定した訓練)を行い、災害マニュアルも作成している。災害に備えた備品については近くの法人施設に整備しており、食品は栄養士が定期的にチェックを行っている。毛布・懐中電灯などの避難時の備品も事務室に準備している。施設外への警報設備があり、近隣地域の協力もお願いしている。	○	火災や地震の定期的な訓練、地域の協力体制、備品の設置など一般的な対策を講じているが、前回の外部評価の改善計画で課題として残った普通救命講習の実施により、充実した災害時の対策が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事内容と摂取量を記録し、偏りがないように気をつけている。管理栄養士により月に1回程度は栄養バランスやカロリーのチェックをしている。飲水量はペットボトルを利用して大まかに把握し、医師の指示がある人は細かくチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	石燈籠を配置した和風の庭があり、サッシの大きな窓から差し込む光で室内は明るい。仏壇や神棚の置かれた和室や、広々とした食堂にはテーブルやソファを置き、気に入った過ごしやすい空間を提供している。また、換気や臭気には気を配り、小まめに窓の開閉をするなど配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドやこたつ・カーペット・箆笥など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。できるだけ使っていたものを持ってきてもらうように家族にも協力を呼びかけている。		